

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年2月12日
【四半期会計期間】	第87期第3四半期（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）
【会社名】	積水樹脂株式会社
【英訳名】	Sekisui Jushi Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 兼 CEO 福井 彌一郎
【本店の所在の場所】	大阪市北区西天満二丁目4番4号
【電話番号】	06（6365）3204
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営管理部長 菊池 友幸
【最寄りの連絡場所】	東京都港区海岸一丁目11番1号
【電話番号】	03（5400）1801
【事務連絡者氏名】	東京総務部長代理 宇田 雅志
【縦覧に供する場所】	積水樹脂株式会社東京本社 （東京都港区海岸一丁目11番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注） は金融商品取引法の規定による縦覧に供すべき場所ではないが、株主等の縦覧の便宜のために備えるものである。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第86期 第3四半期連結 累計期間	第87期 第3四半期連結 累計期間	第86期
会計期間	自2019年 4月1日 至2019年 12月31日	自2020年 4月1日 至2020年 12月31日	自2019年 4月1日 至2020年 3月31日
売上高 (百万円)	46,964	43,307	67,727
経常利益 (百万円)	7,040	7,114	10,860
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	4,760	4,778	7,167
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,791	7,377	6,688
純資産額 (百万円)	101,144	106,932	101,793
総資産額 (百万円)	128,784	135,155	129,997
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	107.57	110.19	162.62
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.5	78.1	77.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,641	5,943	9,622
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,715	467	3,878
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,436	2,273	4,695
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	39,273	45,066	41,906

回次	第86期 第3四半期連結 会計期間	第87期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年 10月1日 至2019年 12月31日	自2020年 10月1日 至2020年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	41.95	48.56

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

4. 当社は四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成している。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社の異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

財政状態

(資産合計)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ51億5千8百万円増加し、1,351億5千5百万円となった。

流動資産は780億9千5百万円(前連結会計年度末は762億7千2百万円)となり、18億2千3百万円増加した。増加の主なものは現金及び預金(前期比31億5千9百万円増)である。

固定資産は570億5千9百万円(前連結会計年度末は537億2千4百万円)となり、33億3千4百万円増加した。増加の主なものは投資有価証券(前期比45億3百万円増)である。

(負債合計)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ1千9百万円増加し、282億2千3百万円となった。

流動負債は233億1千8百万円(前連結会計年度末は244億5千8百万円)となり、11億4千万円減少した。減少の主なものはその他に含まれる未払法人税等(前期比12億5千3百万円減)である。

固定負債は49億4百万円(前連結会計年度末は37億4千5百万円)となり、11億5千9百万円増加した。増加の主なものはその他に含まれる繰延税金負債(前期比11億6千5百万円増)である。

(純資産合計)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ51億3千9百万円増加し、1,069億3千2百万円である。増加の主なものはその他有価証券評価差額金(前期比26億2千7百万円増)及び利益剰余金(前期比25億6千3百万円増)である。

経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により企業収益は大幅な減少が続き、感染対策を行いながら徐々に社会経済活動を戻していくなかで各種政策の効果により生産や個人消費に持ち直しの動きがあったものの、12月以降に感染急拡大がみられるなど収束が見通せない状況が継続しており、経営環境は依然として予断を許さない状況で推移した。

このような経営環境下において、当社グループは、従業員の安全を最優先としたうえで、感染拡大を抑えながら事業活動を両立させるという方針のもと、マスク着用・検温などの基本的対策とともに事業所での感染予防対策を徹底するため、WEBを活用した在宅勤務や営業部門の直行・直帰によるテレワークの実施に加えて時差出勤を推奨し、事業活動を推進している。

当第3四半期連結累計期間においては、自然災害に対する防災・減災対策や交差点・通学路における歩行者の交通安全対策など、社会の課題解決に向けた付加価値の高い製品の総合提案に継続して取り組むとともに、新型コロナウイルスと共存する社会における新たな課題解決に向けて、飛沫感染防止対策製品、ソーシャルディスタンス対策製品などの新製品を開発・販売した。

一方、経費の総点検を行い不要不急な支出の削減を実施するとともに、輸送費高騰に対応した、配送方法の見直しをはじめとする配送効率化へ取り組むなど、収益性を最重視した事業経営を推進している。また、コロナ禍で得た経験を活かし、働き方改革の好機ととらえて業務変革にも取り組み、グループを挙げて、時代・環境の変化に対応した事業活動を展開している。

当第3四半期連結累計期間の業績は、消費活動の低迷や物件の延期などの影響を受け、売上高は433億7百万円(前年同期比7.8%減)、営業利益は65億7千万円(前年同期比0.1%増)、経常利益は71億1千4百万円(前年同期比1.1%増)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は47億7千8百万円(前年同期比0.4%増)となった。

セグメント別の経営成績は以下のとおりである。

< 公共分野 >

交通・景観関連製品：防音壁材は、アルミ枠透明板が北陸新幹線の延伸部に採用されるとともに高規格道路における更新需要の増加により好調に推移した。交通安全製品は、電子表示でドライバーに情報を伝える「オプトマーカー」が交通事故危険箇所や集中豪雨時の冠水対策に採用され売上に寄与するとともに、車線分離標「ポールコーン」が高規格道路での受注を増やし、前年同期を上回る成績となった。防護柵製品は、車両から歩行者を守る交差点安全対策として車両用防護柵や車止めの総合提案が功を奏し大きく伸長するとともに、歩行者用防護柵が用水路などの転落防止用途に採用され、好調に推移した。一方、路面標示材は、前期の大口物件減少と天候不順の影響を受け売上減を余儀なくされた。

スポーツ施設関連製品：グラウンド用人工芝は、オリンピック関連需要が一巡したことや、コロナ禍で学校関係のグラウンド整備が低調になるなど新規の大型物件減少に対して、保守・メンテナンス物件に注力するとともに熱中症予防を切り口とした表面温度抑制対策製品の提案強化を行ったが、前年同期を大きく下回る成績となった。テニスコート用人工芝は、新規大型物件の繰延やテニスクラブの休業などが影響し、低調に推移した。

< 民間分野 >

住建材関連製品：メッシュフェンスは、施工性及びデザインの優位性が評価され戸建て分譲住宅向けに採用されたものの、集合住宅や商業施設物件の建築着工の停滞などが影響し、大幅な売上減となった。めかくし塀は、地震による倒壊対策としてブロック塀改修用途への需要が一巡したことにより、前年同期を大きく下回る成績となった。防音めかくし塀は、居住地域と隣接する工場や保育園・幼稚園における騒音対策等に採用されたものの、建築計画延期などの影響を受け低調に推移した。装飾建材は、コロナ禍によりインバウンド関連、レジャー施設関連及びイベント関連事業などの受注が減少し、売上減を余儀なくされた。

総物・アグリ関連製品：梱包結束用バンドは、環境問題に対する意識の高まりを背景に省資源の軽量タイプやリサイクルタイプの製品提案を強化したものの、業務用食品や工業系など主力ユーザーのコロナ禍における長引く生産活動停滞による需要減少により、大幅な売上減を余儀なくされた。一方、ストレッチフィルム包装機は、物流効率化によるパレット輸送が増加傾向にあるなか、省人化を目的とした全自動機や省力化を目的とした半自動機の導入が進み、好調に推移した。また、安全柵は、工場施設内での安全・安心意識の高まりを背景にストレッチフィルム包装機との総合提案を行い搬送機周辺や工場設備周りに採用されるなど、売上に寄与した。アグリ関連製品は、農業資材が鳥獣被害対策向けの支柱製品が売上を伸ばすとともに、園芸資材が巣ごもり需要増加に伴う家庭向けの支柱製品が好評を博すなど、順調に推移した。

< 関連グループ会社製品 >

橋梁などのコンクリート構造物の劣化や老朽化による剥落事故を防ぐコンクリート片剥落防止システムが、メンテナンス工事増加を背景に売上に寄与した。民間向けサイン製品は、顧客のニーズに対応した製品提案が評価され、前年同期を大きく上回る成績となった。デジタルピッキングシステム製品は、ネット通販や宅配食品などの増加を背景に物流施設内での作業効率化の需要増加により好調に推移したものの、前期の大口物件反動減の影響を受け、売上減を余儀なくされた。組立パイプシステム製品は、飛沫感染防止対策の間仕切りや足踏み式の消毒液スプレーユニットなどの新型コロナウイルス感染対策製品が引き合いを増やしたものの、自動車分野の主要ユーザー向けが低迷し、前年同期を下回る成績となった。アルミ樹脂積層複合板は、イベントの中止や工事の延期・中止が影響し、大幅な売上減となった。

この結果、公共分野の売上高は207億5千1百万円（前年同期比2.5%減）、営業利益は33億5百万円（前年同期比14.6%増）、民間分野の売上高は225億5千6百万円（前年同期比12.1%減）、営業利益は37億5千9百万円（前年同期比9.6%減）となった。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はない。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はない。

(4) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ31億5千9百万円増加(前期末比7.5%増)し、450億6千6百万円となった。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益70億8千2百万円に加え、売上債権の減少等による資金増加の一方、たな卸資産の増加や法人税等の支払を行った結果、59億4千3百万円の収入となった(前年同期は56億4千1百万円の収入)。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資有価証券の取得や有形固定資産の取得等により4億6千7百万円の支出となった(前年同期は27億1千5百万円の支出)。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払等により22億7千3百万円の支出となった(前年同期は44億3千6百万円の支出)。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はない。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は7億5千2百万円である。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	128,380,000
計	128,380,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	47,313,598	47,313,598	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	47,313,598	47,313,598	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はない。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年10月1日～ 2020年12月31日	-	47,313,598	-	12,334	-	13,119

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、直前の基準日（2020年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 3,867,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 43,408,800	434,088	-
単元未満株式	普通株式 37,798	-	-
発行済株式総数	47,313,598	-	-
総株主の議決権	-	434,088	-

【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
積水樹脂株式会社	大阪市北区西天満二丁目4番4号	3,867,000	-	3,867,000	8.17
計	-	3,867,000	-	3,867,000	8.17

2 【役員の状況】

該当事項はない。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、大手前監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	41,906	45,066
受取手形及び売掛金	21,435	17,473
電子記録債権	4,941	5,122
商品及び製品	2,742	2,808
仕掛品	1,315	2,339
原材料及び貯蔵品	2,611	3,133
その他	1,340	2,167
貸倒引当金	20	14
流動資産合計	76,272	78,095
固定資産		
有形固定資産	14,947	14,667
無形固定資産	202	178
投資その他の資産		
投資有価証券	15,788	20,291
退職給付に係る資産	10	154
長期性預金	21,500	20,500
その他	1,549	1,535
貸倒引当金	272	268
投資その他の資産合計	38,575	42,213
固定資産合計	53,724	57,059
資産合計	129,997	135,155
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,578	14,237
短期借入金	1,300	1,300
引当金	988	530
その他	7,590	7,249
流動負債合計	24,458	23,318
固定負債		
役員退職慰労引当金	70	53
退職給付に係る負債	2,580	2,591
その他	1,095	2,259
固定負債合計	3,745	4,904
負債合計	28,204	28,223

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,334	12,334
資本剰余金	13,255	13,268
利益剰余金	75,932	78,495
自己株式	4,362	4,350
株主資本合計	97,160	99,748
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,568	6,195
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	39	82
退職給付に係る調整累計額	336	314
その他の包括利益累計額合計	3,271	5,799
非支配株主持分	1,360	1,384
純資産合計	101,793	106,932
負債純資産合計	129,997	135,155

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	46,964	43,307
売上原価	31,907	28,851
売上総利益	15,057	14,456
販売費及び一般管理費	8,491	7,885
営業利益	6,565	6,570
営業外収益		
受取配当金	285	289
持分法による投資利益	94	141
その他	201	175
営業外収益合計	581	605
営業外費用		
支払利息	38	23
固定資産賃貸費用	27	25
その他	39	11
営業外費用合計	106	61
経常利益	7,040	7,114
特別損失		
固定資産除売却損	24	26
減損損失	-	5
特別損失合計	24	32
税金等調整前四半期純利益	7,016	7,082
法人税等	2,183	2,219
四半期純利益	4,833	4,863
非支配株主に帰属する四半期純利益	72	85
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,760	4,778

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	4,833	4,863
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,115	2,627
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	123	136
退職給付に係る調整額	29	22
持分法適用会社に対する持分相当額	4	0
その他の包括利益合計	957	2,513
四半期包括利益	5,791	7,377
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,713	7,305
非支配株主に係る四半期包括利益	78	71

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,016	7,082
減価償却費	821	816
賞与引当金の増減額(は減少)	388	417
売上債権の増減額(は増加)	4,281	3,769
たな卸資産の増減額(は増加)	1,084	1,621
仕入債務の増減額(は減少)	1,798	631
その他	588	180
小計	8,260	8,816
利息及び配当金の受取額	351	348
利息の支払額	40	25
法人税等の支払額	2,929	3,196
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,641	5,943
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	719	545
投資有価証券の取得による支出	2,212	990
投資有価証券の売却による収入	27	41
短期貸付金の増減額(は増加)	198	0
長期性預金の預入れによる支出	-	5,500
長期性預金の払戻による収入	-	6,500
その他	9	25
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,715	467
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	2,164	0
配当金の支払額	2,225	2,213
その他	47	59
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,436	2,273
現金及び現金同等物に係る換算差額	94	42
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,605	3,159
現金及び現金同等物の期首残高	40,879	41,906
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,273	45,066

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしている。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれている。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
受取手形	-百万円	670百万円
電子記録債権	-	250
支払手形	-	806

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
現金及び預金勘定	39,273百万円	45,066百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	39,273	45,066

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(配当に関する事項)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年4月24日 取締役会	普通株式	1,157	(注) 26	2019年3月31日	2019年6月6日	利益剰余金
2019年10月25日 取締役会	普通株式	1,068	24	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額26円には、創立65周年記念配当4円を含んでいる。

(株主資本の金額の著しい変動)

当社は、2019年10月25日開催の取締役会決議に基づき、自己株式950,000株、2,164百万円の取得を行った。この取得等に伴い、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が4,112百万円となっている。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(配当に関する事項)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年4月30日 取締役会	普通株式	1,129	(注) 26	2020年3月31日	2020年6月4日	利益剰余金
2020年10月27日 取締役会	普通株式	1,086	25	2020年9月30日	2020年12月1日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額26円には、特別配当2円を含んでいる。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	公共分野	民間分野	
売上高			
外部顧客への売上高	21,291	25,673	46,964
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	133	134
計	21,292	25,806	47,098
セグメント利益	2,882	4,158	7,041

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,041
全社費用(注)	476
四半期連結損益計算書の営業利益	6,565

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部である。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はない。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はない。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はない。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	公共分野	民間分野	
売上高			
外部顧客への売上高	20,751	22,556	43,307
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	121	122
計	20,753	22,677	43,430
セグメント利益	3,305	3,759	7,064

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,064
全社費用(注)	494
四半期連結損益計算書の営業利益	6,570

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部である。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性がないため記載を省略している。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はない。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はない。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	107円57銭	110円19銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	4,760	4,778
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額(百万円)	4,760	4,778
普通株式の期中平均株式数(千株)	44,257	43,366

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

2【その他】

2020年10月27日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議した。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....1,086百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....25円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年12月1日

(注) 2020年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払いを行う。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月9日

積水樹脂株式会社

取締役会 御中

大手前監査法人
大阪府大阪市

指定社員
業務執行社員 公認会計士 古谷 一郎 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田畑 昭雄 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 和田 裕之 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている積水樹脂株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、積水樹脂株式会社及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。
監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。